



第4回π造形若手会に参加して

電気通信大学

佐々木 成朗 研究室 小川 亮太

略歴

2016 年 電気通信大学 先進理工学科 卒業 2016 年 電気通信大学大学院 博士前期課程 入学

趣味:スイーツ・カフェ巡り



2017 年 12 月 15 日から 1 泊 2 日間、横浜市内で開かれた第 4 回π 造形若手研究会に参加させていただきました。個性を主張しあうイベントでは決してないことは十分承知していたものの、序盤でのショートプレゼンでは、当研究室の取り組みと発表内容について全く言及をせず、真面目にスライドを作成した後輩のメンツを汚したので、本稿では、当研究室の大まかな研究内容と私の研究に寄せる想いについて簡単にお伝えします。

当研究室では、ナノカーボンの摩擦特性を理論的、数値的に研究しており、これらの微小機械部品としての応用を目指しています。特に私は、グラファイト層間に C_{60} 分子を挟み込んだ「 C_{60} 分子ベアリング」界面構造の超潤滑特性とエネルギー散逸のメカニズムの解明と、その制御に向けた研究を進めています。

私はこれまでに、外部でのポスター発表の機会を 10 回以上頂いてきましたが、初めて参加した学会のポスター発表で、複雑な結果を段階を踏んで分かりやすく説明することの難しさを痛感致しました。それ以来、研究結果を分かりやすく伝えるための努力を惜しまず、研究に取り組んできたつもりでしたが、昨年に引き続き、今回の π 造形若手会に参加させて頂いて、非常に多くの方々から様々な刺激を受けました。特に、私と異なる、有機化学や高分子化学分野の研究者の皆さんによって新たに解明された分子物性には驚くばかりでした。また、個々の研究で駆使されている創意工夫は、物性物理を専門としている者から見ると非常に新鮮である一方、分野は違っても意外と似た考え方もあり、興味は尽きませんでした。このような貴重な機会を与えて頂いた π 造形若手研究会の関係者の皆様にこの場を借りて改めて厚く御礼申し上げます。